

「社会福祉」第八号発刊に際して

菅 支 那 子

陽春の候となりました。斯学のためますます御活躍のことと存じ、およろこび申し上げます。

さて、「社会福祉」第八号発刊に際しまして、一言述べさせていただきます。本集は、とくに、「貧困」問題の実証的研究に関する特集のかわり、おおくりにいたしました。

もともと「貧困」の問題は、幾多の局面を持っています。したがってその全貌に、直ちに、そして一度にふれることは到底出来る相談ではありません。少くともその科学的解明には、社会諸科学、自然科学など、さまざまな学問と、それにたづさわるる研究者、および実践家の謙虚で民主的な協同を必要としています。

ここでは「貧困」の規定のための研究及び紹介、とくにその実証的経験的方法による研究のいくつかをとりあげました。その意味はつぎのように申せましょう。一つは現代の「貧困」が、さまざまな人生に對してもつ重大な意味を考えるのには、「貧困とは何か」が明らかにされておかねばならないということ。常々思うのですが、案外それはまだ判っていないのではないのでしょうか。二つは、社会福祉に関する政策や諸技術のよって立つ基礎、ないし方向・目標を明らかにするためです。政策や技術が、それだけとして切り離されて別個に、あたかもそれ自身が目的であるかのように取扱はれるとするなら、どんなものでしょうか。ともあれ、本集には、日本の都市及び農村に関する研究、及び貧困に関するイギリスの古典的研究の紹介を収めました。社会福祉の研究及び実践に日夜たづさわっておられる方々に、多少とも

参考になればよろこばしいことと存じます。

なお、本集中の、当学科生活問題研究会「都市生活者の社会構成と貧困」という研究報告に関連して、この研究会のなりたちにつき、この際若干の御紹介をしておきたいと思ひます。

この会は、社会福祉学科研究室その他の協力の下に、先にのべた広い視野から、労働と生活・貧困などに関する基礎的研究をおこない、社会福祉に関する望ましい政策や技術を検討するために設けられたものです。しかし、私から申すまでもなく、この分野のこの種の研究は研究だけが切離されて歩むべきではありません。それは抽象的一般的な談議に終るべきではないのは勿論、いつも福祉を進めるための行動や実践と結びついているのが最も望ましい姿です。もともと、その結びつけ方が明らかにならねばなりません。

そのため、研究活動の拠り所とし、研究者・学生がそこから福祉活動の経験を学びとり、なおそれと表裏をなすものとして地域の福祉に貢献するために、東京都足立区興野町興野保育園内に、社会福祉学科 セルメント・ハウスを設立しました。

このようにして、研究と社会福祉のための活動が同時に、研究室員一同及び学生の協力の下に、熱心に続けられております。設立以来日も浅く、まだまだその成果は貧しいものでありますが、今後大方の御厚情を得て、このような芽を、最近の我が社会福祉学科の新しい芽として、大切に育て上げてゆき度いと思う次第です。今後共よろしくお願いいたします。